

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2014 年第 26 週
(6/23~6/29)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

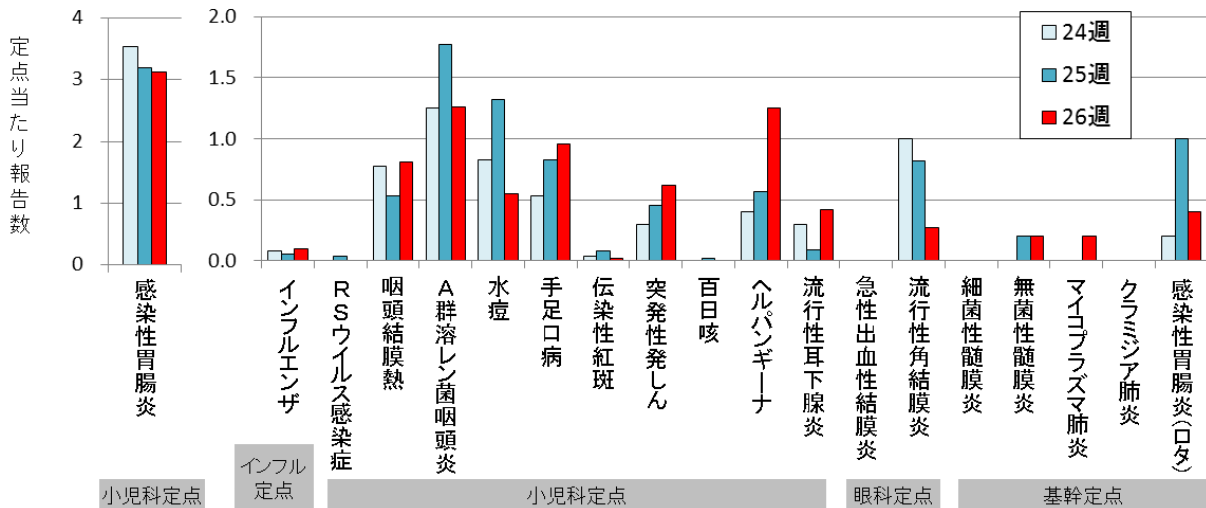
- ◇ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行が続いています。咽頭結膜熱も再び増加しています。
- ◇ 手足口病、ヘルパンギーナが岐阜地区を中心に増加しています。
- ◇ 夏休みに海外に渡航される方は、感染症に注意しましょう。→トピックス

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所名（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較 ・ヘルパンギーナが先週の約 2 倍に増加しています。



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 3 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 4 例（O157：1 例、O121：3 例）
- 4 類感染症：なし
- 5 類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、梅毒 1 例

● 2014 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	194 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	17 例	
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 3 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 9 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	6 例	侵襲性肺炎球菌感染症 14 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 3 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	後天性免疫不全症候群	6 例	風しん 1 例
	ジアルジア症	1 例	麻しん 2 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

■トピックス

《海外で気を付けたい感染症》

夏休みには、多くの方が海外へ渡航されます。環境が大きく異なる海外では、食べ物、飲料水、虫さされ、動物との接触などで思わぬ感染症にかかることがあります。

県内でも、海外で感染したと推定される感染症患者が毎年報告されています（表1）。安全で快適な旅行にするために、感染症に対する正しい知識と予防方法を身につけましょう。

◆ 蚊やダニなどが媒介する感染症

デング熱（蚊）、チクングニア熱（蚊）、マラリア（蚊）、ウエストナイル熱（蚊）、クリミア・コンゴ出血熱（マダニ）など

海外では、蚊やダニに刺されることによって日本では発生していない病気に感染することがあります。近年では、インドネシアやフィリピン、マレーシアなど東南アジアでデング熱に感染する例が多く報告されています。特に熱帯・亜熱帯地域では、長袖・長ズボンを着用し、虫除けスプレーを利用するなど、蚊やダニに刺されないよう対策をしましょう。屋外だけでなく、都市部や室内でも注意が必要です。

◆ 動物からうつる感染症

狂犬病、鳥インフルエンザ、エボラ出血熱、マールブルグ病など

動物から感染する病気は数多くありますが、特に海外では、日本で発生していない危険な感染症がありますので、動物にはむやみに触らないようにすることが大切です。

狂犬病は、日本やオーストラリア、英国など一部の地域を除いて、全世界で発生しています。犬だけでなく、猫、コウモリ、アライグマなどに咬まれることによっても感染することが知られています。

また、中国では鳥インフルエンザ(H7N9)の患者が、東南アジアなどでは鳥インフルエンザ(H5N1)の患者が発生しています。これらの地域では、野生の鳥や死んだ鳥に触ったり、鳥を飼育している場所や鳥を売買している市場に不用意に近づいたりするのはやめましょう。

◆ 食べ物・飲み水からうつる感染症

コレラ、赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、E型肝炎、A型肝炎など

海外に渡航して最も感染する可能性が高いのが、食べ物・飲み物を介した消化器系の感染症です。

衛生状態の悪い地域では、水が様々な病原体に汚染されている可能性があります。生水を飲むのは避け、ボトル入りの飲料水を買うか、水道水の場合は沸騰させてから飲みましょう。現地の屋台などでは、飲み物に入っている氷、カットフルーツやサラダなども、現地の水が使用されている場合があるので注意が必要です。また、生肉や生魚なども避け、十分に加熱されたものを食べましょう。

◆ 中東呼吸器症候群（MERS：マーズ）

MERS コロナウイルスによって起こる感染症で、2012年に初めて報告され、これまで中東を中心に患者が報告されています。

感染経路は現在のところ不明ですが、感染源動物としてラクダとの関連が疑われています。中東に渡航する方は、石けんと流水による手洗いを励行し、生肉や不衛生な状況で用意された食品を避けるなど、一般的な衛生対策を心がけましょう。また、動物との不用意な接触は避け、とくにラクダとの接触や未殺菌のラクダ乳の摂取は避けましょう。

◆ 麻しん

昨年末から今年にかけて、フィリピンなど東・東南アジアで感染し国内で発症する例が増えています。麻しんは感染力が強いため、海外で感染した患者により国内にウイルスが持ち込まれた場合、国内で感染が広がるおそれがあります。

麻しんは風しんとともに予防接種で予防が可能な感染症です。自身の感染を防ぎ、海外からの持ち込みによる国内での感染拡大を防ぐためにも、ワクチン接種を受けていない場合は、渡航前に予防接種を検討しましょう。

渡航前に渡航予定地の詳しい情報を確認し、予防接種が受けられる感染症については、医師に相談しワクチン接種を検討しましょう。 参考：検疫所 HP <http://www.forth.go.jp/>

表1 海外での感染による感染症患者の県内における報告

年	疾患名	報告数	感染地域（推定含む）	主な感染経路
2012年	E型肝炎	1	ベトナム	汚染された食品・飲料水の摂取
	A型肝炎	1	ペルー	
	アメーバ赤痢	5	カンボジア(2)、中国(1)、タイまたはマレーシアまたは中国(1)、不明(1)	
	チクングニア熱	1	インドネシア	蚊による吸血
	計	8		
2013年	細菌性赤痢	3	インド(3)	汚染された食品・飲料水の摂取
	A型肝炎	1	インド	
	アメーバ赤痢	1	台湾	
	デング熱	4	インド、タイ、インドネシア、ペルー	蚊による吸血
	類鼻疽	1	フィリピン	傷口への土の接触
計	10			
2014年 (26週まで)	アメーバ赤痢	1	インド	汚染された食品・飲料水の摂取
	デング熱	3	フィリピン(2)、マレーシア(1)	蚊による吸血
	マラリア	1	アンゴラ	
	麻しん	2	フィリピン(2)	感染者との接触・空気感染
	計	7		

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>